

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770901573		
法人名	医療法人 仁寿会		
事業所名	グループホーム円珠荘 (a. bユニット共通)		
所在地	大阪府高槻市北柳川町2番6号		
自己評価作成日	平成26年11月18日	評価結果市町村受理日	平成27年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた自宅から、当施設で暮らす事になっても家族的な雰囲気を感じながらその人が望む暮らしをしていただけるよう支援していきたいと思っています。一人一人の想いに寄り添いながら心のこもったケアを提供しています。1階の柔道場では少年柔道の教室を開き、子供達の育成に力を注ぐと共に地域の方々とも交流を深めています。同施設内に小規模多機能・デイサービスを併設し相互に協力しながら合同でのイベントを計画し、楽しんでいただくような工夫もしています。また、医療法人が運営母体である為、医師の往診・訪問歯科等、提携医療機関と連携しながら利用者の健康管理の充実に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は阪急総持寺駅から徒歩圏の建物3階に2ユニットで設置され、2階にデイサービス、4階に小規模多機能事業所が併設されている。当ホームの特色は、母体の医療法人を中核に、居宅サービスから病院、施設に至る医療・介護の連携体制が整っている点であり、ホームへの協力医の月4回の往診で、健康管理面での安心な暮らしを利用者に提供できている。また、地域のふれあいサロンでコーヒーを楽しんだり、各種ボランティアの来訪や中学生の職場体験受け入れなど、地域との相互交流も積極的に取り組んでいる。同一階に2ユニットあり、相互に利用者や職員が交流しやすい環境づくりに、工夫が見られる。開設から11年を経過し、職員体制も比較的定着している。管理者は常に前向きに業務に取り組んでおり、理念に謳う、利用者が自立した日常を営めるよう、更なる研鑽を心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく過ごしていただくことを理念に管理者、職員、家族とも密に連携をとって実践している。	「利用者の心に寄り添い・人格を尊重・地域との交流・家庭的な環境・自立した日常を営めるよう援助・」との趣旨の、グループホームに相応しい理念を作成し掲示している。管理者は、職員が覚えやすい端的な表現に見直すことも検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設主催のイベントや運営推進会議などは、地域の方々にご参加いただき、事業所は地域のイベント等に積極的に参加している。	日常の散歩で挨拶を交わしたり、地域の会館のふれあい喫茶に出かけている。種々のボランティアの定期来訪があり、中学生の体験実習も受け入れるなど、地域との相互交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方、家族の方々に施設の事例に基づいて認知症にて話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告、活動状況等報告、地域の方、家族の方々の意見を聞き、サービスの向上、改善に取り組んでいる。	会議は地域包括支援センター職員、民生委員、福祉委員、家族、職員が参加し、隔月に年6回開催している。運営状況、行事予定などを報告し、出席者の質問、意見も出て運営に活かしている。議事録をファイルを公表できるように整えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは密に連絡を取っており、報告、連絡、相談しながら運営している。	市の介護保険課に認定更新代行の事務手続きや、事故報告、運営上の相談などで訪問し、連携を取っている。行政主催の各種研修会などの情報提供を受け参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、ミーティング等で身体拘束について理解を深め、施設全体で身体拘束のないケアを実施している。	身体拘束の禁止と、緊急時の措置に関して重要事項説明書で詳細に記述、説明している。1階玄関は施錠、エレベーターも昇降の制限をしている。外出希望には対応しているが、身体拘束禁止該当事項について、改めて職員の理解を深める検討の余地がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、ミーティング等で高齢者虐待について理解を深め、施設内で虐待の疑義、徹底的に調査するようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は日常生活自立支援事業成年後見制度が必要と考えられる利用者がそれらを活用できるよう関係機関への橋渡しをする為に、地域で行っている会議などに参加し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分時間をかけて利用者や家族に丁寧に説明し、疑問や不安がないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱の設置、家族会議等で利用者、家族の意見を聞く、施設運営に反映させる。	毎月、利用料請求時にホームの便りを送付し、状況報告している。家族の面会が頻回な方が多く、訪問時や適時電話で連絡し、意見・要望を聞き介護記録や申し送りで共有して、運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ミーティングで職員の意見や提案を聞き、施設運営に反映させている。	月1回、職員会議を開催し、利用者のカンファレンスとともに、運営上の意見を話し合う機会を設けている。日々のケアに関する提案や、要望なども管理者、計画作成担当者、リーダーは、職員と風通し良く意見を言いやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者、リーダーが定期的な会議にて個人々の職員、職員環境について報告し、職場環境の改善、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内の定期研修にて、個々のスキルアップを図ると共に、外部研修についても奨励し、積極的に参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会、交流会については、積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時にゆっくり話をし、要望や不安を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にご本人様、ご家族様からもゆっくり話をし、家族の要望、不安なこと、困っていることを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を聞き、現在必要とするサービス導入し。今後必要と思われるサービスも支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内では、職員一同、利用者と家族のような関係で介護するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には本人の実情を正確に報告するとともに家族が不安や本人との関係が劣悪にならないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人が面会に来られた際には、職員一同快く出迎えて、知人や友人が楽しく過ごしていただくよう努めている。	家族は毎週や月単位で、面会に訪れる方が比較的多く、墓参り、法事などで家族と一緒に外出したり、友人・知人が訪ねてくる利用者もいる。入居後に馴染みとなった喫茶店や買い物などに、職員同行で出かける支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が参加していただき、個人が孤立しないような、環境づくりを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族とも連絡を取り合い、退所後の支援や相談も受けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や希望できる限りサービスや支援に取り入れるように、努めている。	利用者に複数の内容をわかりやすく提示して、希望する事項を具体的に選択してもらい工夫対応なども行っている。意思の表出が困難な方には、表情や動作から、本人の思いに沿うような意向をくみ取った支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の体調や精神状態等に留意し、申し送りを通じて職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のその日の健康状態等、身体の状態等を勘案し、その日の過ごし方を本人と相談して決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と連携をとりながらスタッフと話し合い定期的な計画作成に取り組んで行くよう努める。	利用者状況シートおよび、主にADL評価を中心にしたアセスメントをもとに介護計画を作成し、計画作成担当者を中心に、評価、見直しは定期は6か月ごと及び、更新時、状況変化時に行っている。長期、短期目標の期間設定、モニタリング、評価に工夫検討の余地がある。	他事業所の介護計画作成の様式も参考に、アセスメント・介護計画の援助目標と期間設定・個別援助内容の支援経過とモニタリング・評価・サービス担当者会議・再アセスメント・ケアプラン見直しに至る一連のケアマネジメントの過程の、再検討に取り組まれることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤と夜勤の申し送りは朝と夕方、各10～15分間、記録に基づいてできるだけ詳しく行き情報を共用する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の過ごし方は、特に決まったプログラムに沿ったものではなく、その日の状況を見て決めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの喫茶店、飲食店、医療機関などに行くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に連絡を取れるようにしており、利用者の状況を常に報告し、指示を受けられる体制にしている。	従来からの特定科目のかかりつけ医への受診は家族の支援で継続して行っている。協力医療機関の医師の往診は月4回あり、利用者全員の医療管理が行われている。月2回、必要な方への歯科往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や気付きは、常に看護師に報告し、指示を受けるようにしている。また看護師はかかりつけ医と密に連絡を取るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院、家族との連絡を密にし、ADLの低下がなく、早期に退院できるよう動きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者の家族には、事業所でできる事と出来ない事の説明を十分にし、今後の方針を共有するようになっている。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し事業所としての、救急搬送、入院・入所への支援及びホームでの終末期の対応などを説明し、家族の同意を得ている。法人母体の診療機関と医療連携体制がありホームでのターミナルケアも検討しているが、看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故発生時の対応にあたっては、マニュアルに沿って対応するよう職員全対に徹底するようになっているが、定期的な訓練は実施されていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて災害時の避難経路及び、避難方法については確認済みである。また、消防署とも連携しスタッフにも指導している。	年2回法定の消防訓練を実施し、地震時の避難訓練など行っている。災害時に上階の小規模事業所との協力体制ができている。スプリンクラーが設置され、自動火災通報装置の新機種入替えを手配している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しては原則敬語で対応するようにしている。スタッフ間の情報交換以外の場所で、利用者のプライバシー口外しない。	他人行儀な接遇でなく、また親しみや馴れ合いによる呼称や言葉遣いの乱れなどを排して、利用者の人格を尊重した対応のバランスを持った支援に留意して、スタッフ間で確認しあいながら取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か行動を起こす時には、まず利用者に話しかけ承諾を得る。利用者本人の意思決定できる雰囲気をつくるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は、スタッフ側の都合ではなく、利用者のペースを考え利用者本位を優先する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は利用者とスタッフで一緒に行う。その人の好み聞き入れつつ、みだしなみができているよう支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はできる限りスタッフも一緒にテーブルを囲んで摂るようにしている。	朝はパン食で、昼食と夕食は業者から調達したタッパーウェアに入った弁当である。ご飯と汁物は事業所で調理している。夕食は週2回、職員が食材を購入し手作りしている。食事は利用者の大切な楽しみであり、管理者は配食業者の変更も視野に入れて改善検討を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は毎回チェックして、記録して申し送る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、自分でうがいできない利用者には、ガーゼ、歯間ブラシ等で介助する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の一人一人のパターンをスタッフで情報交換し、できる限りトイレでの排泄を促す。	排泄チェック表に記録し、パターンを把握・共有してトイレ誘導している。布パンツで自立は数名、大半はリハビリパンツ・パッド着用である。トイレはユニットに2か所あるが、車いす対応トイレの設置がなく、ADLLレベル低下対応の検討課題である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員の排便を確認する。便秘の方には自然排便を促すための、飲物、食品を工夫する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は個浴だが、事業所内にある大浴場で温泉気分を味わっていただく機会もつくっている。	入浴は現在1ユニットの浴室を使用して、週2回午前中に行っている。清潔保持の目的でシャワー浴なども行っている。足浴もできる。土・日などに2階の通所施設にある広めの浴場での入浴を、数名の利用者が楽しむ機会もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り、本人様の気持ちを大切に、意見をくみ取る。日頃から心を開いて話をしてもらえ職員となるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用している薬の効果を把握し、確実に服用できるようチェック表を作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、たたみ、おやつ作り、食器洗い等、家事でできることは、スタッフと一緒にしていただくよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は、一日一度は必ず外出し、歩行訓練をしている。また季節に応じて郊外へ花見などにも出掛ける。	気候と体調に配慮しながら、できるだけ近隣に散歩に出かけている。コンビニで買い物や、喫茶店に立ち寄ることもある。季節の行事での外出もしている。遠出が困難な利用者には、玄関横の花壇の手入れなどで、屋外での気分転換も図っている。家族と外食に出る利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は、金銭の管理はスタッフがしているが、利用者自ら支払いしてもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人からも電話ができるよう施設内に公衆電話を設置している。またご家族や知人から電話や手紙も快く取り次ぐようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間には、できるだけ季節の特徴のあるものを装飾しているが、温度は体感温度に個人差があるため、温度調節が難しい。	エレベータホールの両側に各ユニットがある。窓からの採光が明るいリビング兼食堂と、キッチンを中心に配置し、畳のコーナーの横にベランダへ避難できる扉がある。周囲に居室、トイレ、浴室を設置し動線は機能的である。リビングの壁には利用者、職員の手作りの作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士、ゆっくり話せるスペースを設けたり、また利用者同士でトラブルやいざこざがあった場合には、席を変えたり工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には本人の気に入ったなじみの物を置いてもらうなど、本人、家族の意見を十分に聞き、部屋づくりに努めている。	ベッド・エアコン・カーテンが備え付けられている。サッシ腰窓からの採光が明るい。各自好みの飾り物や写真、使い慣れた家具が持ち込まれている。室内で趣味の写経をする利用者もあり、夫々が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーになっており、各室に案内板を掲示しておりできる限り、自立した生活ができる環境づくりを心がけている。		